

特集 とうがらし・わさび

Ⅱ わさび【産地の取組】

静岡県における水わさび産地の状況と
農事功労者鈴木刃三氏(伊豆市)の取組

静岡県東部農林事務所 生産振興課班長 前島 慎一郎

1 静岡県におけるわさび生産の概要

静岡県におけるわさび栽培は今から400年ほど前、静岡県中部地区に位置する安倍川上流にある有東木(うとうぎ)において始まったと言われる。その後、わさび栽培は、静岡県内の湧水の豊富な各地に広まり、現在では静岡県の山間地域の特産品となっている。

本県における栽培面積は128ha、生産量は(根茎)227t(H25県みかん園芸課調べ)となっており、産出額は32億円で全国の78%(H25農林水産省調べ)を占め、全国屈指のわさび産地となっている(図1、表1)。

2 伊豆市におけるわさび生産の概要

伊豆市(湯ヶ島、中伊豆)では1744年に天城山守の板垣勘四郎が椎茸の栽培技術の伝承と引き換えに伊豆の産業振興のため、駿河国有東木から栽培技術と苗を持ち帰り栽培を始めたという説や、それ以前に栽培されていたという記録も残っている。

現在は、農家戸数336戸、栽培面積82.6ha(H26伊豆市調べ)の産地を形成している。面積、生産量ともに県内一の大産地であり、さらに伊豆地区のわさびは市場評価が高く、伊豆市の重要な産物となっている(表2)。

また、全国わさび品評会においても、同地区から出品されたわさびが例年農林水産大臣賞等の特賞を受賞しており、全国的にも高い評価を受けている(表3)。

3 農事功績者 鈴木刃三氏の紹介

(1) 経営の特徴

- ・わさび栽培における大規模法人経営
- ・名称：有限会社「マルウわさび郷」

(2) 家族等の状況

- ・家族経営 総数4人 農業従事者4人(うち男4人、女0人)
- ・年間雇用労働力 延べ1,500人日(うち通年雇用5人)
- ・後継者 現在就農中

(3) 経営面積

- ・わさび田 250a(うち借地70a)
- ・施設 ビニールハウス(1棟) 1,300㎡



* 資料：「平成25年わさび生産に関する調査」(県みかん園芸課)より

図1 静岡県におけるわさびの栽培状況(平成25年)

表1 全国と静岡県の水わさび(根茎)の生産状況(平成25年)

	栽培面積	生産量	産出額
全 国	2 2 9 h a	5 2 9 t	4 1 億円
静岡県	1 2 8 h a	2 2 7 t	3 2 億円
静岡県シェア	5 6 %	4 3 %	7 8 %

* 本県の水わさびに関する統計(栽培面積・生産量)は、葉やひげ根を除く出荷荷姿による数値である。

資料：栽培面積、生産量は林野庁資料(小数点第1位四捨五入)による。

産出額は生産農業所得統計(農林水産省)の抜粋資料による。

全国産出額には、1億円未満の県分は含まない。

(4) 既往の主な褒賞実績・称号等

○役職等

- ・平成4年4月～8年4月 天城湯ヶ島山葵組合 組合長、静岡県山葵組合連合会副会長、全国わさび生産者協議会理事
- ・平成8年6月～現在 静岡県山葵組合連合会顧問
- ・平成9年4月～13年4月 静岡県山葵組合連合会会長兼顧問、全国わさび生産者協議会副会長
- ・平成10年～現在 (有)天城わさびの里 代表取締役社長
- ・平成14年5月～20年5月 伊豆の国農業協同組合理事(非常勤)
- ・平成14年11月～20年10月 全国わさび生産者協議会会長
- ・平成16年11月～現在 日本特産農産物協会地域特産物マイスター(現理事)

○受賞歴

- ・昭和49年8月 農林構造改進黨業指導(わさび田造成事業)感謝状
- ・昭和51年12月 農林構造改進黨業指導(わさび田造成事業)感謝状
- ・平成8年11月 静岡県農林水産業功労賞受賞(知事表彰)
- ・平成15年11月 大日本農会農事功績表彰(緑白綬有功章)
- ・平成18年10月 林野庁長官感謝状受賞
- ・平成21年11月 黄綬褒章受賞
- ・平成26年11月 大日本農会農事功績表彰(紫白綬有功章)(図2)

4 鈴木氏の農事改良等の実績

(1) 援農をきっかけにわさび業に参

入、わさび田造成及び栽培技術を習得

- ・昭和26年に静岡県伊豆市(旧天城湯ヶ島町)に来町し、畳石式わさび田の造成を習得するとともに、39年にわさび田を造成して生産者となる。
- ・昭和40年代後半から県内、山梨県都留地域、長

野県穂高地域等9地域の産地に赴き、畳石式わさび田造成技術の普及・指導に尽力してきた。

(2) わさび品質向上技術の確立と普及

- ・平成元年に下田(げでん、生産力の低いわさび田)の増収と品質向上、虫害防止効果を図る栽

表2 静岡県内における水わさび(根茎)生産状況(平成25年度)

市町名	農家戸数(戸)	栽培面積(ha)	生産量(t)
下田市	14	1.9	5.4
東伊豆町	15	2.2	4.0
河津町	47	11.3	32.0
松崎町	19	2.4	7.0
西伊豆町	2	1.4	4.0
伊東市	2	0.2	0.6
伊豆市	331	81.5	136.4
御殿場市	11	2.6	4.0
小山町	10	2.8	0.8
富士宮市	4	1.0	3.0
静岡市	136	20.1	27.3
島田市	2	0.1	1.5
川根本町	4	0.3	0.2
浜松市	1	0.2	0.4
県計	598	128.1	226.5

*資料:「平成25年わさび生産に関する調査」(県みかん園芸課)より

表3 全国わさび品評会 受賞歴(農林水産大臣賞、林野庁長官賞)

回数(年)	農林水産大臣賞	林野庁長官賞
第1回(昭和61年)	中伊豆	中伊豆
第2回(昭和62年)	中伊豆	(御殿場)
第3回(昭和63年)	湯ヶ島	中伊豆
第7回(平成4年)	湯ヶ島	(南伊豆)
第8回(平成5年)	湯ヶ島	湯ヶ島
第9回(平成6年)	湯ヶ島	中伊豆
第10回(平成7年)	湯ヶ島	湯ヶ島
第11回(平成8年)	中伊豆	中伊豆
第12回(平成9年)	中伊豆	(御殿場)
第13回(平成10年)	(御殿場)	湯ヶ島
第14回(平成11年)	(御殿場)	湯ヶ島
第16回(平成13年)	中伊豆	(御殿場)
第17回(平成14年)	湯ヶ島	湯ヶ島
第18回(平成15年)	(御殿場)	湯ヶ島
第19回(平成16年)	(御殿場)	中伊豆
第21回(平成18年)	湯ヶ島	(御殿場)
第22回(平成19年)	湯ヶ島	湯ヶ島
第23回(平成20年)	(御殿場)	湯ヶ島
第25回(平成22年)	湯ヶ島	湯ヶ島
第27回(平成24年)	(安倍)	湯ヶ島
第28回(平成25年)	(長野県)	湯ヶ島



図2 農事功績者表彰（大日本農会）

培方法として、ビニールパイプハウス栽培（図3）を導入する。

- ・風味・食味があり、辛味が強く、根茎の肌色や芽の詰まり等の外観に優れた‘平成一号’と‘平成三号’を平成19年3月に品種登録した（図4）。

（3）優良種苗生産の取組

- ・病害の対策として北海道の士幌農協と共同研究を始め、‘真妻’種のメリクロン苗からの分根苗利用技術を確立し、県下に同技術を普及する。
- ・不可能とされていた夏まき実生苗栽培法に取組み、士幌農協と共同で技術開発を始める。平成11年から苗の購入、植付けが周年で可能になった。
- ・現在では天城湯ヶ島山葵組合を通じて供給する実生苗の約3割が士幌産となっている。

（4）法人経営の設立

- ・平成3年にわさびの経営規模が1 ha となり、有限会社「マルウわさび郷」を設立。代表取締役に就任し、わさび経営のモデルとして注目される。
- ・平成7年に宮内庁賜饌料理委員会の宮内庁三大節の賜饌料理に供給開始。
- ・平成10年にわさびの付加価値を高めるため、天城湯ヶ島山葵組合7戸で有限会社「天城わさびの里」を設立、代表取締役に就任する（図5）。

（5）地域の枠を超えた人材の発掘・育成

- ・県内のわさび農家の子弟をこれまでに5人受入れ、栽培技術をはじめ経営者としての心構えなど、生活から仕事の指導まで行った。
- ・県外から農業を志す青年に2年間の栽培、経営指導を行い、自身のわさび田を提供して独り立ちさせるなど、2人の農家を誕生させている。

5 同氏の地域農業発展等への貢献

（1）豊石式わさび田造成技術の普及・指導に関する貢献

- ・わさび業界に県外から参入してわさび田造成の第一人者となり、県内外からの要望に対して応じてきた。豊石式わさび田の技術伝承が危ぶまれる中、造成技術の普及に関する功績は大きく、豊石式の「中興の祖」と言える。

（2）優良苗の安定供給体制導入に関する貢献

- ・氏の取組を発端とした組織培養苗の普及により、‘真妻’種の品質が保たれており、開発と普及に携わった夏越し苗についても、現在では県内のほとんどの産地が共同研究をした士幌町農協産を入手し利用している。

（3）基盤整備事業の推進への貢献

- ・平成3年以降、わさび田利用林道舗装工事事業を実施し、作業性を改善した。また、生産物運搬労力の軽減と効率化を図るため、平成5年からモノレールの導入事業を手がけ、天城全土20路線にモノレールを設置した（図6）。

（4）人材の育成指導に関する貢献

- ・若者への指導は自身の経験から培った生きた知



図3 わさびビニールパイプハウス栽培

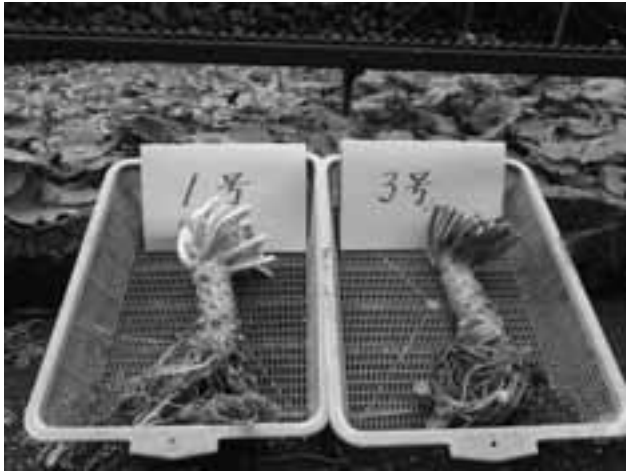


図4 平成一号、平成三号



図5 天城わさびの里

恵の伝承に重点が置かれ、産地を牽引できる人材育成を目指している。わさびでは全国唯一の「地域特産物マイスター」に認定され、各地から要請を受けて指導に尽力している。

(5) わさび専用農薬の登録実現に関する貢献

- ・農薬適用拡大について、国や各県及び研究機関と連携して、安全使用体制の構築を進めていった。平成20年、わさび専用農薬が登録され、特殊な環境にあるわさびが使用可能な農薬の登録の端緒を開いた功績は大きい。

6 終わりに

- ・本県のわさび生産は、①優良種苗の安定確保、②わさび田の生産性向上、③使用農薬の制約、④獣害対策、⑤高級需要の減少等の課題を抱えているが、鈴木刃三氏の様々な活動が、本県わさび業界に多大な貢献を果たしてきた。
- ・今後は、①消費拡大等によるわさびの消費創出、②優良品種育成等による生産力の強化、③自然



図6 モノレール

との共生による地域活性化が振興策として掲げられており、わさびの御意見番としての活動が、本県農業への貢献として期待されている。